



# 第36回近畿高等学校バスケットボール新人大会

## 個人トータル表

女子		令和8年2月15日	9:30	開始
準々決勝		グリーンアリーナ神戸	C	

◎	京都精華学園	96	<table border="1"> <tr><td>28</td><td>1st</td><td>13</td></tr> <tr><td>27</td><td>2nd</td><td>7</td></tr> <tr><td>20</td><td>3rd</td><td>8</td></tr> <tr><td>21</td><td>4th</td><td>21</td></tr> </table>	28	1st	13	27	2nd	7	20	3rd	8	21	4th	21	49	和歌山信愛
28	1st	13															
27	2nd	7															
20	3rd	8															
21	4th	21															

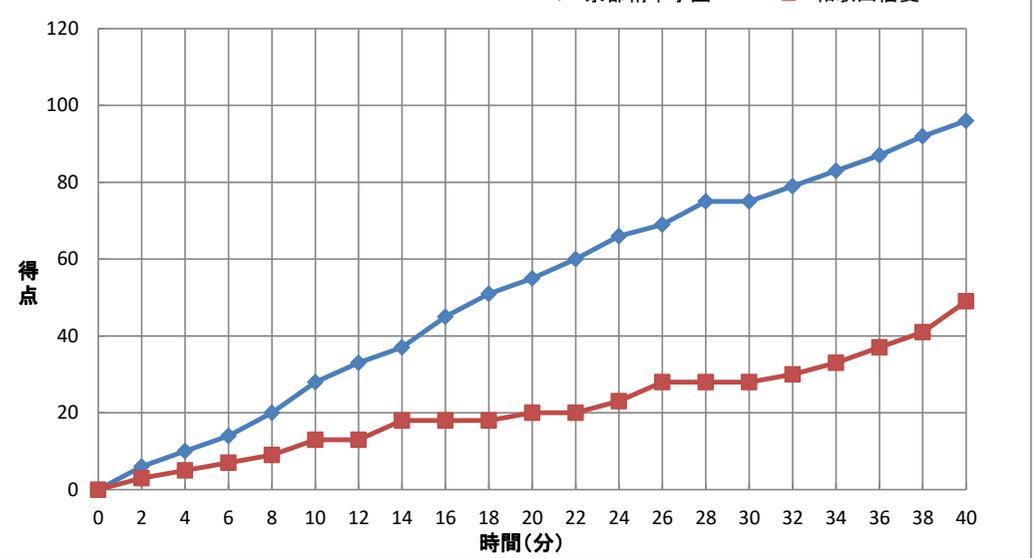
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	吉田 ひかり	9	1	3	0	0	* 4	浦田 沙希	10	2	1	2	4
* 5	満生 小珀	2	0	1	0	0	* 5	石山 紗衣	15	1	6	0	4
* 6	ンガルラ ムクナ リヤ	19	0	9	1	0	* 6	本 日菜子	2	0	1	0	1
7	高山 留里那	5	0	2	1	2	* 7	佐藤 天香	20	1	7	3	3
* 8	谷 彩南	11	2	2	1	0	* 8	中田 萌菜	2	0	0	2	5
9	石井 日菜	12	0	4	4	1	9	持館 里砂	0	0	0	0	0
10	速水 純里	2	0	1	0	0	10	三藪 芽依	-	-	-	-	-
11	堀 心優	2	0	1	0	0	11	中道 蘭	0	0	0	0	1
12	松居 ことほ	0	0	0	0	2	12	土橋 亜実	-	-	-	-	-
13	長瀬 萌々奈	0	0	0	0	0	13	土橋 采実	-	-	-	-	-
14	田中 鈴音	3	0	1	1	1	14	鈴木 聖乃	-	-	-	-	-
15	田中 里旺	2	0	0	2	0	15	中野 優里	-	-	-	-	-
16	大木 一樺	2	0	1	0	1	16	重村 菜摘美	-	-	-	-	-
* 17	石綿 文	6	0	3	0	2	17	重村 紗知穂	-	-	-	-	-
18	オディア カウエル リツツ	21	0	9	3	1	18	山本 真央	-	-	-	-	-
コーチ	山本 綱義						コーチ	宮本 浩次					
Aコーチ	豊田 薫						Aコーチ	清水 健佑					
合計		96	3	37	13	10	合計		49	4	15	7	18

クルーチーフ: 伊 達 桃 子

1stアンパイア: 田 中 真 規

2stアンパイア: 外 川 雄 介

## 得点経過



TO	1・2Q	3・4Q		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	:	:	:	:	:
TeamB	6:48	15:00	27:59	34:57	:	:	:

【戦評】

【第1Q】  
両者マンツーマンでスタート。立ち上がりから京都精華はすぐに#4吉田の2Pシュートや#8谷の連続得点で流れを掴む。#17石綿のゴール下への裏パスや、#6ンガルラとアウトサイドの連携など、インサイドを使って常に合わせを狙う。対する和歌山信愛は#7佐藤の3Pシュート、#5石山の1on1など積極的に攻めの姿勢を見せるが、試合は京都精華が主導権を握り、28-13と大きくリードして第1クォーターを終えた。

【第2Q】  
京都精華は#18オディアと#6の交代を絡めながら、#9石井のスピード感あふれる1on1や、速攻で勢いに乗る。対する和歌山信愛は、#7佐藤の力強い1on1からのバスケットカウントで反撃の兆しを見せ、残り5分でタイムアウトを取り、相手の勢いを止める。しかし、京都精華も終始粘り強いディフェンスで流れを渡すことなく、55-20と京都精華がリードを続け、試合は後半へ。

【第3Q】  
京都精華は、#8の3Pシュートや#7高山の1on1からのストップジャンプシュート、さらにインサイドでは#17、#18のハイローの合わせで得点を重ねる。対する和歌山信愛は#5、#4浦田の3Pシュート、#8中田の1on1からファウルを誘う場面などで食い下がるが、リバウンドがなかなか奪えず点差を縮めることができない。75-28と京都精華が大きくリードを広げて試合は最終クォーターへ。

【第4Q】  
和歌山信愛は、#7のフェイクからの得点、#4のストップジャンプシュート、#5の1on1など最後まで攻め続ける姿勢を崩さない。ディフェンスはオールコートマンツーマンを仕掛け、ボールを奪いにいく場面も見られたが、京都精華の戻りの速さを前に、なかなか攻め切ることができない。試合はそのまま京都精華が押し切り、96-49で勝利。この大会3連覇の女王を前に決して怯まず、最後まで攻める姿勢を崩さなかった和歌山信愛の健闘は素晴らしかった。

戦評: 伊藤 榛南

記録: 県立明石高等学校